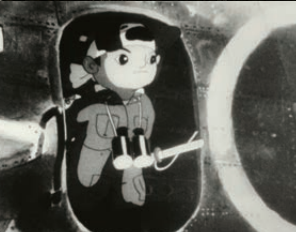


SHOCHIKU CINEMA



展覧会

松竹第一主義

松竹映画の100年

2020.7.7 [火] - 8.30 [日] *月曜日は休室です。

国立映画アーカイブ展示室 (7階)

開室時間: 午前11時-午後6時30分(入室は午後6時まで)
料金: 一般250円/大学生130円/シニア、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料
*料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。
*国立映画アーカイブの上映観覧券(観覧後の半券可)をご提示いただくと、1回に限り一般は200円、大学生は60円となります。
主催: 国立映画アーカイブ 企画協力: 松竹株式会社
国立映画アーカイブホームページ www.nfaj.go.jp Twitter: @NFAJ_PR Facebook: NFAJPR Instagram: nationalfilmarchiveofjapan

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当館では換気と清掃の強化、消毒液の設置、スタッフのマスク及び手袋の着用、受付等での飛沫ガードの設置などを行っております。また混雑状況により入館を制限することがあります。

【ご来館の皆様へのお願い】
*発熱や風邪などの症状がある方はご入館をお控えください。またご来館中に体調を崩された場合はスタッフにお知らせください。
*マスクの着用をお願いします。
*こまめな手洗いや手指の消毒にご協力ください。
*入退場やご観覧の際は、互いに適切な距離を保つようお願いいたします。また展示室内での会話はお控えください。
*団体でのご入場はできません。
その他、感染症防止に関する当館の指示をお守りいただきますようお願いいたします。
詳しくは当館ホームページをご確認ください。 www.nfaj.go.jp

写真(左上から右下)
蒲田撮影所外観写真
『光に立つ女』(1920年、村田実監督)
『モダン艦の鳥』(1931年、斎藤寅次郎監督)
『大人の見る繪本 生れてはみたけれど』(1932年、小津安二郎監督)
城戸四郎(左)と白井信太郎(右)
『桃太郎 海の神兵』(1945年、瀬尾光世監督)
『男はつらいよ』(1969年、山田洋次監督)ポスター



映画を残す、映画を活かす。
国立映画アーカイブ
NFAJ National Film Archive of Japan

SHOCHIKU CINEMA

貴重な資料でたどる 松竹映画100年のあゆみ

1895年に松竹を創業し、歌舞伎などの興行で地位を築いた白井松次郎と大谷竹次郎兄弟が、大衆娯楽として市場を広げていた映画の将来性を確信して松竹キネマ合名社を創立、東京は蒲田に撮影所を開設したのは1920年のことでした。1924年に所長に就任した城戸四郎は、ディレクター・システムを推し進めて現代劇に力を入れ、中でも庶民の哀歓を描いた“小市民映画”で独自色を打ち出しました。さらにトーキー映画の製作に乗り出して社の発展に貢献、この映画の青春期に城戸が高らかに掲げた motto が“松竹第一主義”です。

1936年に開所した大船撮影所は、“大船調”と呼ばれるハイセンスな喜劇やメロドラマを送り出して人気を博す一方、京都の撮影所では主に時代劇が製作され、東西のスタジオが松竹映画の名声を高めました。戦後は小津安二郎や木下恵介ら名監督の作品が日本映画の黄金時代を飾り、1960年代末の映画斜陽期に生まれた『男はつらいよ』や、より近年の『釣りバカ日誌』が国民的な名シリーズに成長して、松竹喜劇の伝統を力強く受け継ぎました。

この100年の間、松竹映画は戦争や映画観客の減少の時代を乗り越え、日本映画界を代表するメジャーカンパニーのひとつとして今も業界を牽引しています。本展覧会では2006年の「松竹と映画」以来14年ぶりに、松竹映画が歩んだ道のりを改めてたどり、先進性と伝統を兼ね備えつつ、常に日本人の感覚に寄り添う作品を生み出してきたこの「和魂洋才」の映画会社の魅力に迫ります。

Matsujiro Shirai and Takejiro Otani were brothers who founded Shochiku in 1895 and built it into a leading force in kabuki and other entertainments. They were also believers in the future of motion pictures, a new form of popular entertainment with a growing market, and in 1920 they established Shochiku Kinema Gomei-sha and opened a studio in Kamata, Tokyo. Shiro Kido, who became the studio's director in 1924, was a proponent of the “director system.” He focused on modern dramas and developed a unique genre called shoshimin eiga that depicted the joys and sorrows of the common people. Kido also played a role in developing Shochiku's film business by venturing into the production of talkies. His lofty motto during this adolescent period of the film industry was “Shochiku First.”

Shochiku Ofuna Studio opened in 1936 and won popularity by producing tasteful comedies and melodramas made in what came to be known as the “Ofuna style.” Meanwhile, its Kyoto studio was primarily making period dramas. The efforts of these studios located in eastern and western Japan combined to boost Shochiku's reputation. Following the Second World War, works by Yasujiro Ozu, Keisuke Kinoshita, and other master directors framed the golden age of Japanese cinema. And later, *Otoko wa Tsurai yo* [*Torasan, Our Lovable Tramp*], released during the industry's late-1960s sunset years, and, more recently, *Tsuribaka Nisshi* [*Free and Easy*] grew into long-running series. Both earned a place in the Japanese public's heart and splendidly inherited Shochiku's comedy tradition.

Over the past century, Shochiku suffered war and dwindling audiences, yet it continues to be a major driver of Japan's cinematic world. This exhibit sheds light on Shochiku's magic as a studio built on wakon-yosai (Japanese spirit with Western learning) and as a producer of works with innovation and tradition that are consistently in step with Japanese sensibilities.



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

展覧会の構成

- 第1章 松竹キネマの誕生—蒲田と下加茂
- 第2章 “大船調”の誕生と戦争の時代
- 第3章 戦後の飛躍期の名作・話題作
- 第4章 新しい“伝統”を求めて
- 第5章 松竹映画の現在—平成から令和へ

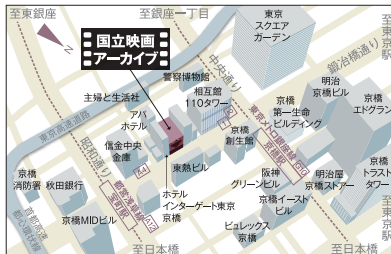
〈上映企画〉松竹第一主義 松竹映画の100年

会期：2020年7月7日⑩～9月6日⑩
会場：長瀬記念ホール OZU

無声映画から“蒲田調”“大船調”のドラマ、時代劇や“松竹ヌーヴェルヴァーグ”、また近年の作品に至るまで、同社を代表する名作や知られざる逸品の数々によってその軌跡をたどる。



〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
お問い合わせ：ハローダイヤル 050-5541-8600
国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.go.jp



交通
 ▶東京外口銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
 ▶都営地下鉄浅草線本町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
 ▶東京外口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
 ▶JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

